

## 企画指導担当

## 水産研究部 企画調整事業

金澤 健・木村 聡一郎

### 事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部（北部水産グループを含む）の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」などに係る業務を行った。

#### 1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、資源増殖チーム、養殖環境チーム及び北部水産グループの資源増殖チーム、養殖環境チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図った。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等の企画、立案を行った。

#### 2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実を図った。

#### 3. 研修事業

他機関や団体等からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図った。

### 事業の方法

#### 1. 企画調整事業

##### 1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズへの迅速、的確な対応、効率的な調査・研究活動を推進して、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき、会議を運営した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び北部水産グループ資源増殖チームリーダー）及びセンター所属長会議（メ

ンバー：部長及びグループ長）に出席した。

##### 2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究開発を推進するため、水産研究部及び北部水産グループの研究予算等の調整と編成を行った。

##### 3) 試験研究課題検討会

要望として出された試験研究課題について、行政職員、普及指導員及び漁協関係者から課題の必要性、普及方法等について必要な助言を得て検討を行った。

##### 4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究実施要領並びに大分県農林水産試験研究アドバイザー設置要領に基づき、学識経験者等のアドバイザーを招集して、水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

#### 2. 広報広聴事業

##### 1) 広報

###### A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会（通称：三水試）を開催した。

###### B. 刊行物等

###### a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、水産研究部及び北部水産グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

###### b) 研究報告

刊行物投稿規約に基づき、大分県農林水産研究指導センター研究報告（水産研究部編）を編集、発行した。

###### c) 広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）を編集、発行した。

###### C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>) 及び北部水産グループのホームページ(アドレス:  
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>)において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

## 2) 広聴

### A. 水産研究・普及連絡会議

研究員と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

### B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

## 3. 研修事業(視察・研修受入)

開かれた研究機関としての役割を果たすために、視察、見学者への説明や案内等を行った。また、児童・生徒の学校関係者や生産者の研修や実習等に対

応した。

## 事業の結果

### 1. 企画調整事業

#### 1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を8回開催し(うち、紙面1回、Web1回)、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

#### 2) 研究予算調整

センター本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の次年度当初予算の取りまとめ、編成を行い、本年度補正予算編成にも対応した。

#### 3) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

2021年12月から2022年3月の間に、大分県農林水産試験研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイス等を受けた(表1-1、表1-2)。なお、新型コロナウイルス感染防止対策のため、3課題はWEB会議により開催した。

表1-1 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立大学法人 愛媛大学沿岸環境科研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准 教 授	北 村 真 一	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 部 長	照 屋 和 久	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 基 礎 グ ル ー プ 長	岡 本 裕 之	学識経験者
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准 教 授	島 崎 洋 平	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 生産技術部	副 部 長	太 田 健 吾	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科生物環境講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村 瀬 昇	学識経験者

表1-2 大分県農林水産研究アドバイザー会議に付託した研究課題

研 究 課 題 名	担 当 チ ー ム	研 究 期 間	備 考
魚病疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	水産研究部養殖環境チーム	令和2~4年度	12月16日
ヒラメ耐病性家系の選抜育種	水産研究部資源増殖チーム	令和3~5年度	1月14日(Web)
IoT等を活用した有害・有毒プランクトン対策	水産研究部養殖環境チーム	令和3~5年度	3月17日(Web)
高級魚キジハタの種苗生産技術開発	北部水産グループ資源増殖チーム	令和2~4年度	2月9日(Web)
ヒジキ『完全養殖技術』の開発	北部水産グループ養殖環境チーム	令和3~5年度	1月13日

## 2. 広報広聴事業

### 1) 広報

#### A. 研究発表会等

2022年3月15日、県庁新館14階大会議室において、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した(図1)。



図1 研究発表会の様子(県庁舎新館14階 大会議室)

水産研究部から7課題、北部水産グループから4課題、北部振興局水産班から1課題の研究発表が行われた(表2)。

表2 大分県水産関係研究者連絡協議会 研究発表会の発表課題名と発表者

発表課題名	所属(チーム)	発表者
イムノクロマトキットを用いた新たな貝毒監視体制	養殖環境	研究員 野田 誠
ヒラメのリンホシスチス病における感染実験系の確立	養殖環境	研究員 吉井 啓亮
大分県の養殖海産魚から分離されたLgarvieae II型の抗原構造の検討	養殖環境	研究員 村瀬 直哉
養殖ブリの端境期出荷へ向けた8月採卵の取組	資源増殖	研究員 鈴木 翔太
タイラギ母貝団地造成技術開発の取組	北部資源増殖	主幹研究員 林 亨次
ムラサキイガイの種苗生産	北部資源増殖	研究員 森本 遼平
ガザミの大型種苗放流の試み ～クルマエビ養殖場跡地を中間育成場として～	北部振興局	普及指導員 中川 彩子
佐伯湾に生息するイトヨリダイの基礎的知見	資源増殖	研究員 山本 宗一郎
磯焼け対策の模索	資源増殖	主任研究員 白 櫻 真
カジメ・クロメ類の人工種苗を用いた増殖試験	北部養殖環境	研究員 入江 隆乃介
中津干潟における栄養塩拡散試験	北部養殖環境	研究員 都留 勝徳

### 2) 広聴

#### A. 水産研究・普及連絡会議

新型コロナウイルス感染防止対策のため、会議資料を送付して、メール等による内容確認及び質疑応答を行った。普及指導員から出された要望等については、各チーム・担当において対応した。

### B. 刊行物等

#### a) 事業報告書

水産研究部の令和2年度事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

#### b) 研究報告

大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第8号を2022年3月に発行した。また、第9号の応募を行った。

#### c) 広報紙 AQUA NEWS (アクアニュース)

本年度は、7月に第53号、1月に第54号を編集、発行し、ホームページで公開するとともに、県庁情報センターへ配布した。

### C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

#### B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

2021年7月20日に豊後水道北部海区(大分市、臼杵市及び津久見市)、7月28日に東国東・別府湾海区(国東市、姫島村、杵築市、日出町、別府市及び大分市)を対象とした県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議をそれぞれ開催した(図2)。



図2 県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議の様子(東国東・別府湾地区)

なお、豊後水道南部海区(佐伯市)及び豊前海区(中津市、宇佐市及び豊後高田市)は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、紙面による会議を行った。

対面で開催した会議において報告した研究取組状況について表3に示した。

表3 県漁協 地区漁業運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績及び研究取組状況の報告

開催日(場所)	対象地区	研究取組課題名/報告者
2021年7月20日 (大分県臼杵総合庁舎)	豊後水道北部海区	「豊後水道北部海域におけるマアジ・マサバの資源動向」 水産研究部 資源増殖チーム 主任研究員 中尾 拓貴
		「IoT技術を用いた赤潮監視の取組」 水産研究部 資源増殖チーム 研究員 野田 誠
2021年7月28日 (大分県日出総合庁舎)	東国東・別府湾海区	「天然採苗によるマガキ稚貝の付着状況と環境要因の関係」 北部水産グループ 資源増殖チーム 上席主幹研究員 日高 悦久
		「北部水産グループにおける海藻類の種苗生産」 北部水産グループ 養殖環境チーム 研究員 入江 隆乃介

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

生徒・児童等の学校関係者や生産者を中心に、視察、見学及び実地の研修や実習等に対応した(図3)。



図3 高校生を対象とした研修の様子

水産研究部および北部水産グループにおける受入対象者別の実績を表4に示した。

表4 視察等受入れ実績

対象者	水産研究部		北部水産グループ	
	件数	受入人数	件数	受入人数
生産者			2	10
団体等職員				6
普及指導員				2
大学生	1	1		
小・中・高校生	4	65		
その他	1	17		
合計	6	83	2	18

(注)文書等により依頼があったもので、人数は概数である